

協議会ニュース 99号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2005. 3



『ギフチョウ』

●特集 講座研修(最終回)	P2~3
「森づくりを通した実践活動報告&意見交換会」	レポート:牧野 靖子
・支部だより 尾張支部 / 名古屋支部	P4~5
奥三河支部 / 東三河支部		
・観察会のネタ 高谷 昌志	P6
・会員のページ 酒井 勇次	P7
・観察会あれこれ 牧野 紀子	P8
・生物暦 齋竹 善行	P9
・理事会だより	P10
・事務局だより	P11
・総会案内 他	P12

講座研修（最終回）

「森づくりを通した実践活動報告&意見交換会」

日時：1月30日（日） 場所：なごやボランティア・NPOセンター

報告：知多支部 牧野靖子

今回はテーマに沿い下記6名の方々より発表がありました。

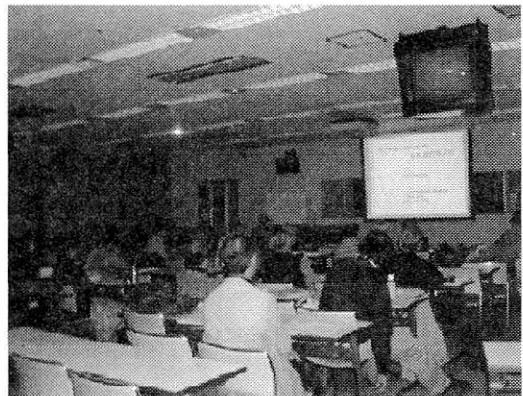
知多支部：南川陸夫 東三河：中西正 尾張：高橋匡司 尾張：大谷敏和

名古屋：堀田守 知多：降幡光宏

参加者：22名

「猿投の森づくり」知多支部 南川陸夫

「日本山岳会の森林保全の歴史」と「現在保全活動を進行している猿投山での活動」について発表されました。日本山岳会東海支部では1990年より森林生態学や森林保全などの森についての勉強会を合計6回実施し、創立100周年の記念行事として『ボランティアにおける後世に続く「優れた森づくり』』を行うことになり、そのフィールドを、瀬戸市と豊田市の境に位置する猿投山に決めました。森の形としては遷移を先駆性落葉樹（ハンノキ類）～非先駆



研修風景

性落葉樹の途中相に止めておくことが生物多様性、水土保全などの公益的機能が最大になるとを考え、人工林の間伐、針葉混交林施業、広葉樹林施業、作業歩道、自然観察路、標識類の整備などを実施しているようです。

「豊橋市東部の里山づくり」 東三河支部 中西正

里山づくりの進め方についての具体的な実践内容や考え方のポイント、注意事項の説明がありました。里山づくりを行うときは、まずそれに携わるボランティアの事前教育が大切であり、フィールドワークも含めた10回コースの具体的な教育プログラムの提示がありました。プログラムの特徴としては、まず、“しっかり学び、考え、その上で行動展開していくシステム”となっていたことです。現場の実態を正しく認識し、その場の植生管理をする必要性があるのかどうかを十分考え、その上で、そのフィールドの遷移の位置を確認し、作っていくべき理想の状態の共有化を図ることが大切だということがわかりました。また、継続した活動展開において、当初の活動目的や作っていくべき姿を勝手に変えたり、他の目的のために利用したりすることがないよう注意が必要であると思いました。

「ギフチョウのための雑木林の手入れ」 尾張支部 高橋匡司

春日井市東部丘陵「築水の森」のギフチョウの保護、保全するために雑木林の整備と幼虫の食草となるスズカカンアオイの増殖の具体的な内容についての発表がありました。

ギフチョウは、明るい林内を好む蝶である文献によれば照度30%程度が理想的だそうです。常緑樹の間伐や林間の空間（オープンランド）の確保を継続的に進めていくことで太陽光が林床にもあたるようになり、産卵や幼虫の食草であるスズカカンアオイや吸蜜植物であるスミレ、ツツジなどが増え個体数の増加につながるようです。ただ、卵の調査においては毎年数にかなりの変動があり、長いデータを取り続けなければはっきりとした個体数の増減は不明とのことです。

「掛川小の自然環境作り」 尾張支部 大谷敏和

瀬戸市掛川小学校の西に広がる国有林を学校と森林管理署が教育活動の場とする協定を

結び、荒れた森を整備し道を作り森の中に遊びの拠点までも作ることができたそうです。発表では子供たちの生き生きとした活動状況や森の中にある様々な動植物(ハルリンドウ、シデコブシ、ササユリ、ギフチョウなど)の写真をふんだんに見せていただきました。また、毎年冬に学校で人工的に作る結氷が年々できる機会が少なくなってきており、今年は1度もできていないとのことで地球温暖化の影響が懸念されました。

「森づくりを通した実践活動報告」 名古屋支部 堀田守

名古屋市猪高緑地の歴史から現在の里山復元活動の事例を発表していただきました。猪高緑地は昭和58年頃までは地形はそのままでしたが、開発計画が発表され、反対運動はあったが工事により緑地帯は虫歯状態で開発されていました。しかし、バブル崩壊とともに開発計画も見直され、現在、基本構想はエコパーク(生態系の保全、創造を重視した環境にやさしい公園)として位置付けられています。昭和45年頃まで存在した田んぼ、竹林、ため池、雑木林などの里山を形成するパートを整備、特に増えすぎたタケを計画的に伐採し竹炭作りで有効活用しているようです。また、平成13年には棚田の復元を提案し、田んぼグループがコメ作り体験を行い、自然環境の共生を考える場として機能しています。説明で使われた写真の中に工事の影響によって死んだトウキョウサンショウウオが何十匹も写ったものがあり、過去においてはトウキョウサンショウウオの産卵地としてはトップクラスの自然生態系が残されていた大変貴重な場所です。今を生きる人類の便利さを追求したエゴでこのすばらしい自然の未来を奪うことのないよう、また最もよいと思われる里山復元を目指し後世まで共通の財産とし残していくことを痛感しました。

「知多支部内の里山活動」 知多支部 降幡光宏氏

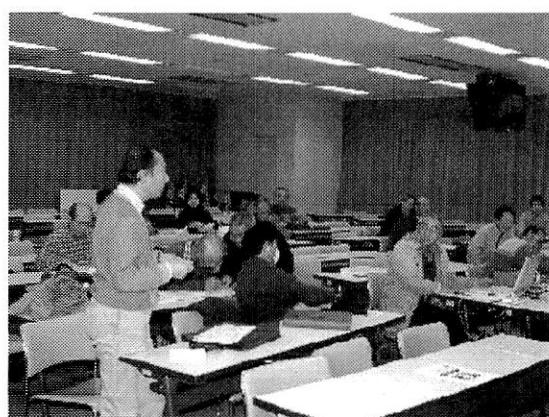
武豊町、美浜町、大府市でのそれぞれの活動状況についてお話しいただきました。

武豊町での里山活動は98年から02年まで、個人所有の土地を借り保全活動を行いました。所有者と行き違いが生じ、返還要請があり活動も打ち切りとなり、せっかく手入れした里山も3年で草と竹が茂り元の荒地となったようです。個人の所有者のいる土地での活動の難しさを感じた例でした。

美浜町での活動は97年に愛知県主催の里山保全アドバイザーの講習会を美浜町で開催、それに引き続き美浜町が里山活動を計画し、98年から知多支部に活動のお手伝いを依頼されました。ここは武豊町と比べ、活動地域となっている区有林と個人の畑を町が土地の賃借契約をしていることから武豊のような問題は起きていないそうです。今後の課題としては、参加者の意識アップによる事業計画の構築、スタッフの若返り、地元の方の更なる巻き込みなどが上げられていました。(活動内容は知多自然観察会のHPに掲載)

大府市「二つ池セレトナ」で森づくりの研修を募集したところ3名しか集まらず、途中で中止になりました。自然が身近に残る大府では自然に対しての重要性や魅力を感じる方が少ないのか、思うような研修参加者の動員、育成は難しかったようです。

今回の研修では、里山づくりや保全のプロセス、問題点、その環境の周辺にすむ人たちをどう取り込み活性化していくかなどがわかり、今後の活動の大変良い勉強となりました。講師の皆様、本当にありがとうございました。



尾張支部（尾張自然観察会）総会報告

報告：齋竹善行

1月10日、名古屋市東区の東桜会館において尾張支部の総会が25名の参加でもって開催されました。

開会に当たり山田会長から、会員の逝去・退会など残念なこともあったが、新しい定例観察会の発足など明るい動きも見え、以前会長をやった15年前と比べ、観察会が量的にも質的にも充実してきて、強力な人材が着実に育っているので、今まで活躍してきた人に加え、これから的新しい人の活躍を期待したいとの挨拶がありました。

続いて、事業報告、会計報告が承認され、役員選出では、次のように新年度の役員が決まりました。

（会長）山田博一、（副会長）大谷敏和、（監事）加藤正行、（事務局）吉田雅紀、（会計）齋竹善行

事業計画では、4月から犬山市と春日井市からの委託がなくなることが報告され、ふるさと親子自然観察会に代わるスランプラリーの観察会として善師野（5月）と定光寺（6月）を選定しました。

予算は委託料収入がなくなり厳しくなるが、会費値上げせずに、指導員派遣費見直し、支部通信のeメール化などで対応することとしました。

討議では、観察会担当者を重視して欲しいという意見が強く出されました。指導員1人で指導できる参加者は10人が限度なので、定例観察会の運営をサポートするため、手伝える観察会を会員に聞くことにしました。

次に、万一事故が起こった時の対応マニュアルを作つておく必要があるという意見が出され、検討することとなりました。

観察会のPRで、新聞への掲載を積極的に活用してはどうかといいう意見がある一方、観察会参加者が多く、指導員が少ないのでこれ以上PRして欲しくないという声もありました。

そのほか、支部の地域割りについても意見が出されるなど活発な議論が交わされました。

名古屋支部（名古屋自然観察会）総会報告

報告：滝田久憲

平成17年度の名古屋支部の総会が1月23日（日）午後2時から名古屋市教育館2階の第8研修室で開催されました。当日の参加者は17名でした。事務局の巾さんの司会のもと、萩原さんの議長就任が承認され、当日不参加の会員からの委任状を合わせて総会の成立が宣言されました。最初に私が平成16年度の事業報告を行いました。これまでの事業に加えて、新たにエコパルスクールなどの受託事業、アサギマダラのマーキング調査などの助成事業、保育園などで環境学習を行う環境サポート事業などを実施したことや、支部のホームページが立ち上がったことなどが報告されました。続いて会計の山原さんによって平成16年度の収支決算の報告と脇田さんによる会計監査の報告がなされ、承認されました。

続いて、平成17年の新役員、「なごや環境大学」で講座を開設する新規の事業を含めた事業計画やその実施のための収支予算が提案され、承認されました。

平成17年度の支部役員は以下の通りです。

支部長 滝田久憲

副支部長 岩沢修 近藤記巳子

柴田美子 滝川正子 滝田久憲

布目均 萩原育男 巾賢治

堀田守 山田千宏

（以上、定例観察会代表）

会計 石川登志子、山原照生

事務局 巾賢治

会計監査 山田千宏 脇田孝仁

今年度は愛知万博の年です。前向きに考え方を捉えて、関係する諸団体との交流や支部活動などの情報発信が課題になるかと思います。

奥三河支部（奥三河自然保護研究会）総会報告

報告：村上和彦

平成17年愛知県自然観察指導員連絡協議会奥三河支部総会（報告）

（平成17年奥三河自然保護研究会）

1月23日（日）新城観光ホテルにて総会がおこなわれました。

始め今泉会長の挨拶があり、議事にはいりました。平成16年事業報告が庶務会計の村上より報告がありました。支部観察会の白鳥山は水晶を求めて散策し、天気には恵まれなかつたけれど、有意義に観察会ができた。ふるさと親子自然観察会は、取組は良かったし、天気にも恵まれたけれど、参加者が少なく、広報活動が失敗した。また、当日の連絡方法がしっかりしていなかつたため、集合場所が良く分からなかつたので、今後集合場所については、分かりやすい工夫をするようにしたい。支部研修会の南沢山は、小人数ではあつたけれど、気持ちのよい汗をかき、美しい景色を堪能することができた。

次に会計報告があり、次年度の予算も承認された。

事業計画の前に、会長より役員改選を先に決めるよう動議が出され、そのように決定され結果、会長村上和彦副会長今泉洋良庶務会計小山舜ニに改選された。



平成17年度の事業計画は、活発に議論され、ふるさと親子自然観察会は「四谷千枚田」に決定、日時については、7月になる予定、支部観察会は11月6日（日）茶臼山山麓に決定。支部研修会は5月22日（日）兀岳に決定。詳細は後日坦より報告される。

昼食をとて解散する。

東三河支部（NPO法人東三河自然観察会）総会報告

報告：梶野保光

東三河支部（NPO法人東三河自然観察会）は平成17年度通常総会を1月29日午後2時から豊橋グランドホテルで開催した。NPO法人化されて2回目の通常総会ということで多くの会員が参加し、各議案を審議し、総会終了後、今年は会員であり、愛知県環境部長の稻垣さんの「イラン・イスラム共和国における大気汚染の状況」の卓話が行われ、パワーポイントを使った最

近のイランの環境の様子が紹介されたが、参加の会員は熱心に聞き入っていた。その後、県協議会会長の中西さんの進行で会員同士の情報交換の場でもある懇親会が同ホテルで引き続き開催された。懇親会は参加者全員の近況報告や自然に対する思い、今年計画されている会員研修会の見どころなどの説明もあり、午後8時の散会まで楽しいひと時を過ごした。

鳥媒花（ツバキなど）

尾張支部 高谷昌志

ヤブツバキは「ネタ」の宝庫です。学名にジャポニカの名を持ち、オベラ「椿姫」の題材にもなった世界に誇るべき日本の名花ですが、ネタの第一は「鳥媒花」です。いきなり「日本では鳥が花粉を媒介する数少ない花ですよ」と説明したくなりますが、なるべく参加者に考えさせましょう。

私の場合は、なぜ「冬に咲くか？赤い色か？甘い蜜がこんなに多いのか？」と質問します。これらはすべて鳥媒花の特徴で、冬の開花は他のエサが少なく又、蜜を争う虫たちがいないため、赤はハナバチには認識できず鳥の好む色であること、多量の蜜はもちろん大食漢の鳥メニューです。運がいいとメジロやヒヨドリが蜜を吸い、顔に花粉をいっぱい着けていくのが見られます。

鳥媒花としての特徴は他にもあります。厚い花びらや筒状の雄しべは鳥の体重や動きに耐えると同時に外側からの盗蜜をガードするため、香りが無いのは鳥の嗅覚が鈍いから、花が横向きなのも鳥仕様です。

参加者が多くなければ蜜の甘い味も体験したいものです。巨大生物の人間でも楽しむことができる量の多さを実感できます。むやみに採らないことを言うのは当然ですが。

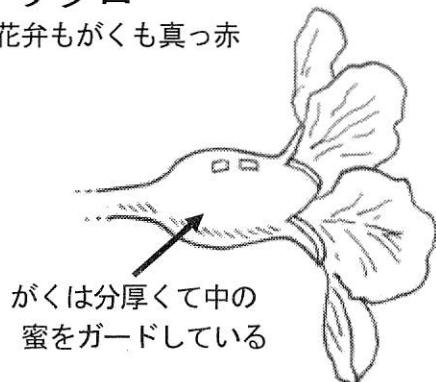
鳥媒花はハチドリのいる中南米原産が多く、サルビア、アメリカデイゴ、シャコバサボテン、フクシア、ツキヌキニンドウなどがあります。アジア原産はザクロ、デイゴ、ノウゼンカズラなど、キダチアロエは南アフリカです。移入なので日本での開花時期は不自然なものがありますが、いずれも赤色・無香・多蜜など鳥媒花の特徴はバッチリ備えています。身近によく見られるのは赤い花を好む人間の都合でしょうが、

見かけたら「ネタ」にしない手はありませんね。

ところで私はサルビアやデイゴなどいくつか味見しましたが、ノウゼンカズラの花弁が有毒であることは後で知りました。要注意です。

ザクロ

花弁もがくも真っ赤



話のついでに「ツバキ」の語源は「厚葉の木」又は「ツヤ葉木」であること、また葉の表面を被うクチクラ層はキューティクル(cuticle)をローマ字読みしてしまったことを話すと「ほう」と感心されます。

調子に乗って「サザンカはサンサカ（山茶花）が訛ったもの」などとウンチクを披露しますが、この辺りから参加者の顔がうんざりしたものになります。

参考文献

- ・「したたかな植物たち」SCC 多田多恵子
- ・「花の顔」山渕ポイント図鑑 田中 肇
- ・「花の声」〃 多田多恵子

稻作り体験&観察会

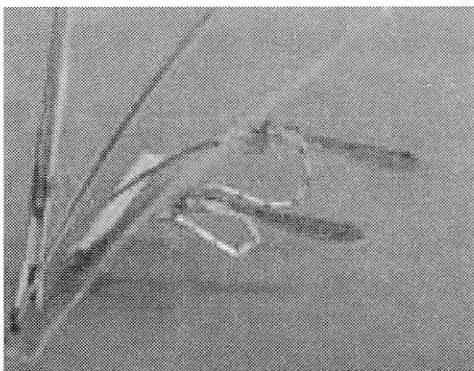
尾張支部 酒井勇治

稻作りを始めて今年で5年目、研修会として体験&観察会を始めて今年で3年目を迎えました。稻作りを始めて有機、減農薬、無農薬での栽培に取り組み、田んぼにはいろいろな生き物がいるのだと知り、この環境を観察会の場として提供したいと思い、体験&観察会をいる田んぼではあまり見られないのに、こんなに差があるものなのかとビックリです。

田んぼは人の手により環境が変化します。その環境の変化により多くの生き物が姿を現します。春先の田んぼに始めました。田んぼのある環境は、岐阜県八百津町福地。標高600mある中山間地です。交通の便が悪く、気軽に行ける場所ではありませんが、そのおかげで、静かでのどかな場所です。

有機肥料を使う田んぼにはたくさんの生き物が集まっています。無農薬栽培をして一番驚いたのは、田んぼ全体でトンボの羽化がたくさん見られた事です。隣の化学肥料を使っては畦の所にシュレーゲルアオガエルの卵塊、小川の土手にはフキ、ツクシが顔を出し、田んぼに水が入り代かきする頃には土に隠れていた生き物たちが姿を現します。田植えの時期になるとオタマジャクシがたくさん見られ、山からやってきたホソミオツネントンボが苗に多数見られ、田植えをしてしばらくするとイネミズグウムシが現れます。梅雨から夏にかけてホタルが多数見られ、オタマジャクシから成長したカエルを狙ってヘビや鳥が狩りをする所が見られるようになります。夏になり穂が出る頃には田んぼで羽化したトンボが多数見られ、穂には米汁を吸いにカメムシが現れ、葉にはクモが巣を張り獲物を捕まえている所が見られます。落水をして稻刈りをする準備をする頃には生き物たちは徐々に姿を隠し、稻刈りを終え稻作りが終わるとあるものは山に帰り、あるものは土の中に隠れ冬を越す準備をします。このようにシーズンを通して稻の生育を見る楽しみと多くの生き物を見る事の出来る面白い場所です。

このごろの田んぼは耕作放棄により草の生い茂った休耕田や宅地開発により埋め立てられてしまった田んぼが増えてきています。田んぼは食料を生産する場であり、生き物が多く生息する場であり、心を癒してくれる場です。このようなすばらしい環境が減っていく事は残念な事です。私は少しでも多くの方に田んぼのすばらしさを知っていただければと思っています。



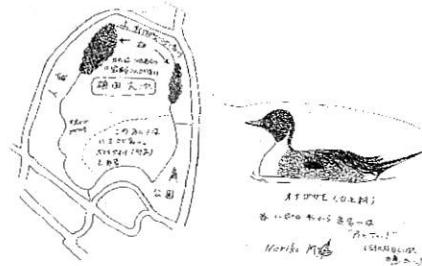
豊橋市植田町の調整池

東三河支部 牧野 紀子

豊橋市内には、調整池が数多くあります。私の自宅がある植田町でも、9カ所の大小さまざまな池があり、そのうち6カ所を散歩で毎回訪れるのを楽しみにしています。

町内で1番大きな池が、植田大池です。今の時期の楽しみは、冬に北の国から渡ってくるカモたちを観察できることです。毎年1月になると、この池の水鳥をカウントする担当でもありますので、数えています。今年のカウントでは数が多く、主要カモであるホシハジロが久々に1,000を超えるました。数えるのは大変ですが嬉しいこともあります。

ここに訪れるカモたちは、毎回メンバーの構成種や数が変わります。もう少し密に訪れて数えていくなりすれば、もっと変化の推移などがわかってくるのかもしれませんね。1997年には、神野新田で発見されたコハクチョウ2羽と、オオハクチョウ1羽がこの池にも一休みに来るという、喜ばしいニュースがありました。2001年には、数が少ないとされるトモエガモも来ています。やはり何度も足繁く池に訪れないと、こうした果報は得られないのだと実感しました。(ちなみに、ハクチョウトモエガモの発見も皆他の人から聞いて知り、あわてて確認にいった次第です。)



植田大池の様子とオナガガモ

イラスト筆者発行「おおばこ-植田町の自然探し-31号」抜粋

秋になると、池の土手にはワレモコウやツリガネニンジンの花が咲きます。このような草地植物が生息する場所は、身近な所では少なくなってきた。

恒川敏雄著「渥美半島植物期」の記述によれば、昭和30年代頃までは、この池の水辺の泥地で、今となっては貴重な存在となってしまったコウホネや、ムラサキミミカキグサなどの植物も見られたそうです。

様々な開発や護岸工事などで、調整池の半自然的な環境が完全な人工貯水池になってしまい、生き物が姿を消してしまうケースが多いと思います。できれば水を貯める役割とはほかに、生き物が住める豊かな場所としての役割もあることを認識され、環境保全できるような対策が取られることを望んでいます。

それぞれの各池ごとに、環境の特徴が違っており、観察できる生き物も少しずつ異なってきます。皆様の近くにはどんな池(ため池)があるでしょうか?

生物暦の中間報告

齋行

「生物季節」をご存知ですか。知らないといわれる方も、サクラの開花情報などで、「今年は平年より何日早く開花した」といった報道に接したことがあるでしょう。

気象台では、気温、風向・風速、気圧といった気象データの観測のほか、サクラの開花、ウグイスの初鳴きといった動植物の活動も観測しています。全国で観測対象としているのは次に示すように、植物で12種16項目、動物で11種11項目、そのほかに各気象台で独自に観測している項目もあります。

【植物】ウメ(開花)、ツバキ(開花)、タンポポ(開花)、ソメイヨシノ(開花・満開)、ヤマツツジ(開花)、ノダフジ(開花)、ヤマハギ(開花)、アジサイ(開花)、サルスベリ(開花)、ススキ(開花)、イチョウ(発芽、黄葉、落葉)、イロハカエデ(紅葉、落葉)

【動物】ヒバリ(初鳴)、ウグイス(初鳴)、ツバメ(初見)、モンシロチョウ(初見)、キアゲハ(初見)、トノサマガエル(初見)、シオカラトンボ(初見)、ホタル(初見)、アブラゼミ(初鳴)、ヒグラシ(初鳴)、モズ(初鳴)

これを「生物季節観測」と呼んでいますが、季節の進み具合や天気が生物に及ぼす影響を知ることを目的に行っているものですから、観測場所、開花日の定義などが厳密に決められています。植物の場合、個体差を除くため、観測対象とする「標本木」を指定し、毎年その木を観測し、動物では気象台の敷地又はその近くで観測を行っています。また、「開花日」とは、「対象植物の花が数輪以上開いた状態となった最初の日」というように決められています。

私たちは、そこまで厳密に生物事象を観測することは難しいのですが、シーズンで初めてツバメを見た、セミの声を聞いた、キンモクセイが咲いたといったような情報(現象、日時、場所)をたくさん蓄積していくれば、生物活動の経年変化や地域差が分かりて来るものと考えられます。そこで、当協議会でも、こうした観察記録を「生物暦」として募集しています。こちらは、生物季節観測のように観察対象の種を特定せず、見かけたものを記録することで運用しています。この生物暦の募集を協議会ニュースNo.84(2002年9月号)で呼びかけてから3年になりますので、当協議会の会員が参加している「自然観察メーリングリスト」に寄

せられた2004年12月までのデータを紹介します。

データの総数	662件
報告者	25名
報告された種数	286種
報告の多い種(10件以上のもの)	
クマゼミ	32件(初認27、終認5)
アブラゼミ	19
アオマツムシ	16
ニイニイゼミ	15
ジョウビタキ	13
ヒガンバナ	12
キンモクセイ	10
ツツツクボウシ	10

この中から最もデータが多く集まった「クマゼミの初認」について、少し詳しく見てみましょう。

2002年: 7月7日~18日 (データ数12)

2003年: 7月12日~19日 (データ数6)

2004年: 6月27日~7月6日 (データ数9)

データ数が少ないので、統計的に有意かどうかわからませんが、この3年を比べると、2004年がやや早く出現しているように感じられます。

このときのクマゼミのデータは、春日井、江南、岩倉、名古屋(中・昭和・熱田・中川・港・南区)、半田、安城、豊橋から寄せられていますが、各年で最初と最後に報告された場所は

2002年: 名古屋市(熱田)~春日井

2003年: 豊橋~名古屋市(中川)

2004年: 安城市~岩倉市

となっています。

愛知県内くらいではあまり地域差がないのかもしれません、豊橋や安城が早く、春日井や岩倉が遅いという結果からは、南の方の出現が早そうだと感じられます。これも、もっとデータが集まればよつきりしてくるものと考えられます。

以上、簡単に生物暦について紹介しましたが、これまでのデータは、エクセルのファイルで公開していますので、関心のある方はご活用ください。

気候変動の影響によるのか、このところ南方系の生物が北上するなど生物の活動に変化が起こっているようです。経年変化や地域差を見るうえで、こうしたデータの蓄積が重要だと思います。生物暦のデータ募集は継続していきますので、これを機に多くの会員が、生物の活動に关心を持って、観察データをお寄せくださることを期待しています。

問合せ先は、尾張支部の齋行まで

(e-mail: yoshiyuki.saitake@niftyne.jp)

■ 理事会報告

2004/12/23（木・祝）14:00～17:20

於なごやボランティア・NPOセンター

出席者：石田 梶野 大谷 鬼頭 近藤 齋竹

佐藤 滝田 中西 松尾 三田

降幡代理：南川 山田 吉川 脇田

議長：中西

記録：近藤

◆ 議題

0. 報告

- ・オールアイシンNPO活動応援基金助成申請
- ・総会会場（3/21）にあいちNPO交流プラザ予約

1. 来年度事業計画

・25周年記念事業

講演会

愛知の自然のパネル展示（各支部作成）

県内6箇所をめぐる自然観察スタンプラリー
(各支部のフィールド)

・リーフレット

愛知県自然観察指導員連絡協議会PR活用
自然観察指導員講習会にも併せて活用

・会報

年6回発行・うち101号を新たなスタートとする記念特集号

・調査

環境指標生物調査としてダンゴムシ・陸貝
良好な自然実態調査（視察研修的なもの）

・研究会「学校における環境教育」

2005年度に2回

・「自然と接するためのマナー」の作成 (コピー刷りの簡易版)

・研修会：調査事前学習となる内容とする

5/29・・・テーマ：陸貝・ダンゴムシ

10/30・・・テーマ：野外研修

1/29・・・テーマ：生物暦

・総会：3/21(月・振休)

総会・・・13:00～14:20

講演会・・・14:30～16:30

退出・・・17:30

2. 会計中間報告

- ・収入は予算を下回ったが、支出も予定より少額で収まっている。若干の繰越予定。



2005/2/11(金・祝)14:00～17:30

於なごやボランティア・NPOセンター

出席者：石田 大谷 鬼頭 近藤 齋竹 佐藤

滝田 中西 堀田 松尾 三田 村上

降幡代理・南川 山田 脇田

議長：中西

記録：近藤

◆ 議題

0. 報告

- ・オールアイシンNPO活動応援基金助成申請のヒヤリング報告

1. 来年度事業計画

・総会について

次第及び資料の確認

講演は中村俊彦氏の了解が得られた
演題はこちらで決めずお任せする

・16年度決算（案）

ブナ科調査報告書作成検討の結果、予算不足のため次年度に移行

・17年度予算（案）

ブナ科調査報告書作成のため予算を上積みし、全会員に配布を決定（3月の総会時）

・スタンプラリー

各支部一場にこだわらずに提案されたものをすべて実施することに決定・・全10会場

・機関紙：年6回発行（101号を特集号とする）

・研修

研究会を7/18 9/23に予定

他は前回に同じ

・リーフレット作成

指導員講習会及び25周年記念事業に活用。
さまざまな場でのリーフレット活用によって、自然観察の趣旨を理解してもらいやすくなる。

・パネル展

25周年記念事業講演会会場にて実施

・協力事業

愛知県主催の指導員講習会に協力

・新指導員歓迎会

25周年記念事業に組み入れる

2. その他

・編集委員の自薦・他薦について

・リスク管理について

知多支部の例を参考にしてはどうか

■追加記入のお願い

=会員名簿=

「協議会ニュース」前号に同封の会員名簿についてお知らせします。

名簿は事前チェック、また印刷時には有志のみさんの協力のもと多数の目で確認の上、作業をしたつもりでしたが、記載漏れがありました。お詫びと共に会員名を追加記入をお願いします。また、作成後に連絡を受けた会員名及び住所表示変更・新会員の連絡がありましたので併せて名簿に記入ください。

◆追加記入

山本三郎さん（東三河支部）

〒440-0061 豊橋市飽海町 95

（0532）54-4363

秋田 貢さん（名古屋支部）

〒496-0902 海部郡佐屋町須依字庄屋敷 34-5

（0567）23-1902

◆住所表示変更（郵便番号・電話変更なし）

岩井隆史さん（名古屋支部）

名古屋市緑区東神の倉1-2316

鈴木重蔵さん（名古屋支部）

名古屋市緑区鳴海町細口3丁目108番

コンセール鳴丘104

鈴木豊さん（名古屋支部）

名古屋市緑区砂田1-906

長谷川安子さん（名古屋支部）

名古屋市西区大金町2-25-1

大金住宅1-202

樋口建夫さん（名古屋支部）

名古屋市守山区大森御膳洞1112-301

◆ 新会員

伊藤岱二さん（知多支部）

〒470-2103 知多郡東浦町大字石浜

宇田之助 6-57

（0562）83-7068

木村修司さん（西三河支部）

〒471-0065 豊田市平芝町5-1-7

（0565）34-0164

馬場隆之さん（西三河支部）

〒444-0942 岡崎市中園町郷中 82-1

（0564）32-1527

◆連絡先などの変更は早めに

転居・婚姻などによる住所・氏名などの変更は速やかにご連絡ください。

また最近は住所表示変更も多くなっています。表示変更のみならず、郵便番号の変更も忘れないよう手続きください。

■発送用封筒について

発生抑制（リデュース）



再使用（リユース）

「協議会ニュース」発送にあたり、再使用封筒を併用して送付することとしましたのでお知らせします。すでに理事会・編集部など一部の連絡に、封筒を再利用していましたが、会員あてにも活用範囲を拡げることにしました。幸い発送担当者のみなさんにも快諾を得、実施する運びとなりました。

折りしも京都議定書が発効され、私たちの意識改革が求められます。協議会として、封筒を繰り返し使うことで資源・ごみの発生抑制に取り組み、これにより二酸化炭素排出量を減らし、地球温暖化防止につなげます。観察会とは違うアングルからの環境保全活動実践です。

尚、今回は約150通、再利用封筒で機関紙をみなさんのもとに発送します。これにより1,500円の経費節減になります。今後、総会・研修などの折に封筒を持参すれば、再利用推進に務めますので、是非ご理解・ご協力、お願ひします。

■案内～シンポジウム～

豊かな水と森林をいつまでも

日時：2005年3月12日（土）9時30分～12時

場所：愛知県瀬戸市「せとしんエンゼルホール」

（ペネリスト） 大谷敏和（瀬戸市立掛川小学校教諭・愛知県自然観察指導員）他

締め切り：2005年3月5日（土）着

※先着順にシンポジウム200人 ■入場無料

■お問い合わせ先 「水と森林パートナーシップ」形成推進事業委員会 Tel（052）522-3838

■アサギマダラ調査

=静岡県自然観察指導員会 西部支部=

静岡県自然観察指導員会 西部支部の2005年活動計画に「アサギマダラ・マーキング調査」を実施するという連絡が入りました。同協議会がこの活動を決めた経緯は、昨秋の研修会時に名古屋支部のアサギマダラ・プロジェクトのチラシを見たことがきっかけ、とのことです。今年は、静岡県のマークを愛知県で再捕獲、となるかもしれませんね。

（以上、事務局：近藤）

平成17年度総会のお知らせ

平成17年度通常総会開催のお知らせをいたします。愛知県自然観察指導員連絡協議会会員が一堂に集う数少ない機会です。

万障繰り合わせのうえご出席ください。

場所：あいちNPO交流プラザ

日時：3月21日（月・祝日）

受付：12時30分～

総会：13時～

講演会：14時30分～

閉会：16時50分

懇親会：17時30分～（希望者）

◆ あいちNPO交流プラザ

（愛知県東大手庁舎1階）

名古屋市中区三の丸三丁目2番1号

052-961-8100

地下鉄名城線「市役所」駅下車

（2番出口）東へ徒歩3分

名鉄瀬戸線「東大手」駅下車

西へ徒歩3分

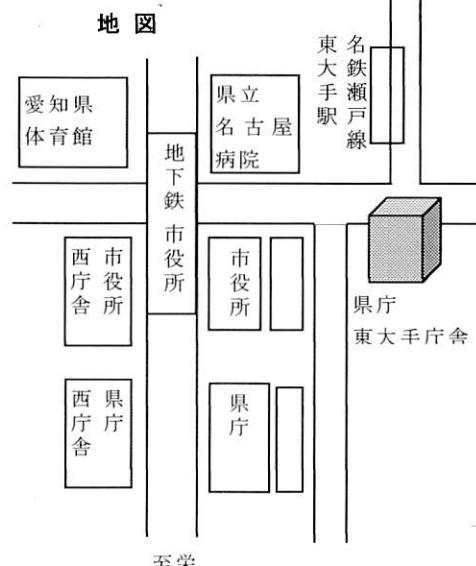
● 講演会：「（仮）自然について」

講師：中村俊彦氏 千葉県立中央博物館

講演をいただくのは、2004年9月に実施されたフォローアップ研修（愛知県主催）で、豊富な資料と丁寧な話が好評だった中村俊彦氏です。

前回都合で受講できなかった方は是非、総会へどうぞ！

地図



至榮

編集後記

今月の表紙はギフチョウ（画：尾張支部 岩沙雅代さん）です。

ギフチョウは主に本州西部にある自然の多く残された里山で早春の一時期に見られます。近い仲間にヒメギフチョウがあり2種の分布はギフチョウが暖温帯、ヒメギフチョウが本州東部から北海道といった冷温帯に生育しています。

しかしどちらも生息地となる林が減り、数は減少しています。ギフチョウのいる林がいつまでも残って欲しいものです。（稻生）

お詫び

前回の協議会ニュース裏表紙の号数が98号のところ97号となっていました。お詫びいたします。

編集スタッフ

稻生和久、岩沙雅代、近藤記巳子、齋竹善行、古川俊江、荷川真弓、松尾初、横井邦子

◎みなさまのご意見・ご感想など原稿をお寄せください。

尚、原稿は内容を変えない程度に加筆・修正することがあります。あらかじめご了承下さい。

「協議会ニュース」に関する宛先（編集部）
〒445-0863 西尾市葵町44 荷川真弓

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市南区鳥栖2-6-17 桜本町CH101

近藤記巳子 Tel/Fax 052-822-7460